

美容医療・歯科治療・
近視矯正の判例と実務〔第2版〕

目次

第1章 はじめに

I	多発する美容医療サービスをめぐる被害	2
1	消費生活センターへの相談件数の急増	／2
2	相談事例に見える被害の実態	／2
3	被害急増の背景——インターネット・スマートフォンの普及と美容外科医療に対する意識の変化	／5
4	高齢者の美容医療トラブルの増加と被害額の高額化	／6
5	男性の美容医療トラブルの増加	／6
6	若者の美容医療トラブルの増加	／7
II	営利的（自由診療）医療被害裁判の概要とその難しさ	8
1	司法統計から見える裁判件数	／8
2	低減する認容率	／8
3	営利的（自由診療）医療被害裁判の難しさ	／9
III	的確な支援が被害の掘り起こしにつながる	10
1	美容医療サービス被害相談の開始とその限界	／10
2	被害者心理への配慮の必要性	／10
3	クリニック側の対応	／11
4	法律相談の実情	／11
IV	本書の構成	13

第2章 美容外科被害と裁判

I 美容外科医療業界の特徴	16
1 美容医療の実態	／16
2 医療上の特徴	／16
3 学会の特徴	／17
(1) 日本美容外科学会——同名の二つの学会の存在	／17
(2) 日本美容医療協会	／18
4 美容外科クリニック業界の特徴	／18
(1) 経営上の特徴	／18
(2) 経営の実態	／19
(3) 提供される医療行為の特徴	／20
(4) 美容外科被害の増加	／24
(5) 美容外科の特徴を現している最近の判例	／24
II 脂肪吸引術をめぐる美容外科被害	25
1 脂肪吸引術	／25
(1) Superwet 方式	／25
(2) Tumescent 方式	／25
(3) VASER 方式	／26
(4) Body-jet 方式	／26
2 脂肪吸引の適応と留意点	／26
(1) 基本的な考え方	／26
(2) 留意点	／26
(3) 禁忌とされる部位	／29
3 使用機器	／30
4 合併症	／30

(1) 美容的な合併症	／30
(2) 美容以外の合併症	／32
5 判例	／33
Ⅲ 切開式除脂術（脂肪切除術）の美容外科被害	59
1 切開式除脂術（脂肪切除術）	／59
(1) 切開式除脂術（脂肪切除術）の適応	／59
(2) 標準的な術式	／59
2 合併症と原因	／60
3 判例	／60
Ⅳ その他の美容目的の痩身治療	63
Ⅴ 胸・乳房をめぐる美容外科被害	64
1 インプラント豊胸術	／64
(1) 手技	／65
(2) 合併症	／66
(3) 合併症の原因等	／67
(4) 合併症の修復治療	／72
2 注入法による豊胸術	／72
(1) 種類	／72
(2) 自家脂肪を注入する豊胸術	／73
(3) 吸収性注入剤（ヒアルロン酸）を注入する豊胸術	／77
(4) 非吸収性注入剤の注入による豊胸術	／78
(5) その他の注入による豊胸術	／83
3 乳房固定術・乳房縮小術	／83
(1) 手術の内容	／83
(2) 合併症	／84
4 乳輪・乳頭（縮小）形成術	／84
(1) 手術の内容	／84
(2) 合併症	／84

目次

5	陥没乳頭挙上術	／85	
6	判例	／85	
VI	眼瞼をめぐる美容外科被害	119
1	上眼瞼の美容外科手術	／119	
(1)	手術の内容	／119	
(2)	判例	／122	
2	下眼瞼の美容外科手術	／134	
(1)	手術の内容・合併症	／134	
(2)	判例	／136	
VII	鼻をめぐる美容外科被害	154
1	鼻の美容外科手術	／154	
(1)	隆鼻術	／155	
(2)	鼻尖形成術	／156	
(3)	鼻翼形成術	／157	
(4)	鼻中隔延長による鼻形成（延長）術	／157	
2	判例	／157	
VIII	フェイスリフト手術をめぐる美容外科被害	167
1	切開によるフェイスリフト手術	／167	
(1)	手術の内容	／167	
(2)	判例	／168	
2	スレッドによるフェイスリフト手術	／176	
(1)	手術の内容	／176	
(2)	判例	／177	
IX	顎・顔の輪郭をめぐる美容外科被害	181
1	顎・顔の輪郭の美容外科手術	／181	
(1)	輪郭形成術	／181	
(2)	合併症	／182	
2	判例	／183	

(1) 顎骨隅角削除・頬骨削除術	／183
(2) 上顎前突修復術	／194
(3) 顎変形症外科矯正手術	／195
X レーザー・光治療による皮膚美容治療をめぐる美容外科被害	198
1 レーザー・光治療	／198
(1) レーザー・光治療による皮膚美容治療の概念	／198
(2) 種類と適応	／199
(3) 合併症	／202
(4) 刺青に対するレーザー治療	／202
(5) 肝斑に対するレーザートーンニング治療に対する評価	／203
2 判例	／206
XI 腋臭・多汗症をめぐる美容外科被害	223
1 腋臭・多汗症の美容外科手術	／223
2 合併症	／223
3 判例	／224
XII フィラーをめぐる美容外科被害	239
1 フィラーの美容外科手術	／239
(1) 概要	／239
(2) フィラーの内容と合併症	／239
2 判例	／245
XIII メソセラピーをめぐる美容外科被害	249
1 メソセラピー	／249
2 安全性	／249
3 判例	／250
XIV ケミカルピーリングをめぐる美容外科被害	253
1 ケミカルピーリング	／253
2 判例	／254
XV 包茎手術をめぐる美容外科被害と裁判	257

目 次

- 1 包茎手術商法の実態 /257
 - (1) 包茎手術の適応 /257
 - (2) 国民生活センターの発表情報 /259
 - (3) 包茎手術商法の背景と構造——Uクリニック・グループ関係者の裁判記録より /259
- 2 陰茎の美容外科手術 /264
- 3 判 例 /265
- 4 和解・示談 /273
- 5 東京都消費者被害救済委員会の高額な包茎手術の契約にかかる紛争案件の報告 /273

第 3 章 歯科治療被害と裁判

- I 営利的歯科治療被害の実態 276
 - 1 インプラント治療の被害実態 /276
 - (1) 国民生活センターの報告から見る被害実態 /276
 - (2) 歯周病学会のアンケートから見る被害実態 /277
 - (3) 日本口腔インプラント学会の理事長あいさつ /279
 - 2 開業歯科医院における審美歯科医療の実態 /279
 - 3 審美歯科治療の被害 /280
- II 審美歯科をめぐる被害 282
 - 1 審美歯科治療 /282
 - (1) 治療内容 /282
 - (2) 合併症・原因 /287
 - 2 判 例 /288
- III インプラント治療をめぐる被害 300
 - 1 インプラント治療 /300

(1) 特徴	／300
(2) 治療指針2020（口腔インプラント学会）	／300
(3) 歯周病患者における治療指針（歯周病学会）	／319
(4) 実施例	／320
2 合併症	／322
(1) 治療指針2020（口腔インプラント学会）	／322
(2) 専門家による報告	／323
3 判例	／328
IV 補綴治療をめぐる被害	359
1 補綴治療	／359
(1) 歯科補綴の定義	／359
(2) 歯質・歯の欠損により生じる症状	／360
(3) 補綴治療の内容	／360
(4) 補綴治療において求められるべき治療内容	／362
2 合併症	／367
3 欠損歯列に対する欠損補綴治療・咬合再編成治療	／369
(1) 問題の所在	／369
(2) 欠損形態の分類	／369
(3) 歯の欠損の補綴歯科診療ガイドライン2008（日本補綴歯科学会）	／370
(4) 専門歯科医師の指摘や検討	／371
4 判例	／372
V 矯正歯科治療をめぐる被害	419
1 矯正歯科治療	／419
(1) 定義	／419
(2) 正常咬合と不正咬合	／419
(3) 矯正歯科治療の内容	／420
(4) 不正咬合に対する矯正歯科治療の具体的な治療計画・治療方法	／421

目次

(5) 日本矯正歯科学会の診療ガイドライン /422	
2 矯正歯科治療の合併症 /425	
(1) 合併症の内容 /425	
(2) 治療方針の選択の誤り・矯正装置の使用法の誤りによる合併症 /426	
(3) 合併症に起因する再治療症例 /427	
3 判例 /428	
VI 抜歯措置をめぐる被害	446
1 抜歯措置 /446	
2 判例 /447	
VII 歯内治療・根管治療をめぐる被害	460
1 歯内治療の目的 /460	
2 判例 /461	
VIII 歯科麻酔をめぐる事故	469
1 歯科麻酔 /469	
2 判例 /471	
IX その他の歯科被害の判例	475
1 インプラント治療 /475	
2 補綴治療 /476	
3 抜歯措置 /476	
4 歯内治療・齲蝕治療 /477	
5 麻酔その他の被害 /478	

第4章 近視矯正手術被害と裁判

I 営利的近視矯正手術による被害の端緒——RK手術の集団被害の発生	480
II 近視矯正（LASIK）手術被害の実情	482

1	消費者庁・国民生活センターの公表資料	／482
(1)	重大な身体被害に至った事例	／482
(2)	手術前のリスク説明が不十分だったおそれがある事例	／483
(3)	広告等の手術前のリスク説明が不十分だったおそれがある事例	／484
2	日本眼科学会の実態調査報告	／485
3	安心LASIKネットワークの記者会見	／485
4	患者取り違えの事故の報道	／486
5	日本白内障屈折矯正術学会の研究報告	／486
6	現在の近視矯正手術をめぐる状況	／487
Ⅲ	近視矯正手術	489
1	概要	／489
2	日本眼科学会のガイドラインと現状	／490
(1)	適応	／491
(2)	禁忌	／492
(3)	慎重適応	／492
(4)	インフォームド・コンセント	／492
(5)	術前スクリーニング検査	／493
(6)	術中の留意点	／493
(7)	術後の経過観察と合併症	／494
Ⅳ	LASIK手術の合併症とその原因	496
1	近視矯正手術の合併症	／496
2	屈折矯正手術のトラブル防止対策とケア	／496
3	屈折矯正手術におけるトラブル防止の知見の進化	／498
(1)	PRKにおけるヘイズの防止	／499
(2)	術前の視力検査上の留意点	／499
(3)	コントラスト感度の術前検査の必要性	／500
(4)	角膜形状解析(角膜の前後面解析)の意義・円錐角膜自動診断プログラム の射程	／500

目次

(5) 波面収差解析の必要性和限界 /501	
V 判例	502
1 LASIK 手術 /502	
2 PRK 手術・RK 手術 /523	

第5章 被害回復（救済）の手順

I はじめに	530
II 身体的被害への対応	532
1 緊急診療の重要性 /532	
2 緊急受診先と受診の意義 /532	
(1) 相手方クリニックの受診 /532	
(2) 大学病院や地域の総合病院を受診する目的と注意点 /533	
(3) 美容外科被害における日本美容医療協会の電話相談・マル適医師の活用 /534	
(4) 歯科治療被害における大学病院・総合病院（歯科・口腔外科）の受診の重要性 /535	
(5) 近視矯正手術被害の診断における検査項目 /536	
III 経済的被害への対応	539
1 メディカルクレジットへの対応 /539	
2 メディカルファイナンスへの対応 /540	
3 支払済みの手術代金の返還や損害賠償の支払へ向けた交渉 /540	
IV 後医への協力の要請	542
V 法律相談における要点	543
VI 損害賠償請求訴訟の流れと工夫	544
1 損害賠償請求訴訟の流れ /544	
2 起訴前の証拠保全の必要性 /544	

3 美容外科被害における術前・術後写真・手術機器などの確保の重要性 /546	
4 歯科治療被害における印象や歯形模型の重要性 /546	
5 近視矯正被害事件における角膜形状解析・波面収差解析の分析の必要性和重要性 /547	
6 文献の活用 /548	
主要参考文献一覧	550
判例・和解索引	568
著者紹介	582